

4. 通期の業績見通し

当第3四半期の売上高および利益は前回予想（2005年10月公表）を上回ることが出来ました。これは、国内外のサービスビジネスが引き続き堅調に推移するとともに、日本を含む国際的な市況の回復に合わせてネットワークプロダクト、パソコン、携帯電話やLSI、電子部品といった製品群が好調だったことによります。

このように第3四半期では前回予想を上回っておりますが、通期の業績については、現段階では売上高、営業利益、経常利益、当期純利益のいずれも、10月公表時からの変更はありません。

国内のシステムプロダクトやサービスビジネスにおいて、年度末に売上、検収が集中することによる不確定要素が残っており、なかでも年度末に利益の集中度が高いサーバ関連の売上の確度、また進行基準の適用により収益は平準化してきましたが、検収が集中する第4四半期における影響などの精査に努めている段階です。このほかに、パソコンでは円安および商戦開始時期前進の影響が見込まれ、また現在好調なLSI、電子部品、HDDなどにおいても所要と収益性を見極めております。

一方、セグメント別の内訳につきましては、売上高は、連結全体では前回予想からの変更はありませんが、電子部品が好調なデバイスソリューションでの増加を見込んでいます。また、営業利益につきましても、全体での変更はありませんが、売上が好調なデバイスソリューションでの増額を見込む一方、システムプロダクトでの国内外における競争激化の影響を織り込み、システムプラットフォームを減額いたします。

（単位：億円）

| | 2005年度(予想) | 10月公表比 | 2004年度(実績) |
|-------|------------|--------|------------|
| 売上高 | 48,000 | - | 47,627 |
| 営業利益 | 1,750 | - | 1,601 |
| 経常利益 | 1,100 | - | 890 |
| 当期純利益 | 500 | - | 319 |

この資料に記載した内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知のリスクや不確実な要因により、実際の結果・業績または事象と異なることがあります。実際の結果・業績または事象に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます（但しここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません）。

- ・ 主要市場における景気動向（特に日本、北米、欧州）
- ・ ハイテク市場における変動性（特に半導体、パソコン、携帯電話など）
- ・ 為替動向、金利変動
- ・ 資本市場の動向
- ・ 価格競争の激化
- ・ 技術開発競争による市場ポジションの変化
- ・ 部品調達環境の変化
- ・ 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- ・ 不採算プロジェクト発生の可能性
- ・ 会計方針の変更